

令和 6 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策 の方 向性	事業名	主な実績
A	大阪府芸術 文化振興補 助金	【概要】 子どもや青少年を中心とした府民に、優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う活動に補助金を交付する。(上限 100 万円)※大阪府文化振興基金を活用 【実績】 ○令和 6 年度分 応募 44 件、採択 13 件 ○令和 7 年度分 応募 54 件、採択 13 件 ○事業説明会を 2 回開催（12/19 開催：参加者 19 名、1/18 開催：参加者 27 名） ○個別相談会を開催（1/18 開催：参加者 12 組） ○今年度は下記の工夫により、昨年度より応募申請者を 10 件増加させることができた。次年度も引き続き本補助金の認知度の向上に努める。また、今年度実施した交付要綱や募集案内の更新・修正についてアンケート等により効果測定を行いながら、引き続き事業者が申請・活用しやすい補助金制度を検討していく。 ○工夫した点 ・交付要綱および募集案内について、昨今の文化芸術関連事業が多様かつ複雑になってきている状況に合わせ、幅広いジャンルの事業者にとって申請しやすくなるよう、交付要綱および募集案内を更新した。 ・交付要綱の申請様式について、申請時点・実績報告時点で比較しやすくなるよう変更した。 ・これまで作成していた募集要項について、同音の「要綱」との混同を防ぐため、「募集案内」に名前を改め、レイアウト等も大幅に修正し、図や表も多用しながら事業者に内容が伝わりやすくなるよう努めた。 ・パンフレットについて、デザインにおいては、中面のレイアウトを大きく変更し、2つの補助金の違いや募集の流れがわかりやすくなるよう更新した。また、配架先については、市町村や文化ホール等に加え民間の文化芸術関連施設にも新たに配架を行い、一層の広報・周知を図った。 ・説明会については、昨年度は平日夜間に 1 回のみ開催していたが、今年度は平日夜間、休日の日中の 2 回開催とした。（休日の日中での開催は初）また、説明会の内容についても、事業説明の時間を多く確保し、普段から問い合わせや申請間違いが多い内容について注意を促しながら丁寧に説明するよう工夫した。結果として、1 回目・2 回目ともに説明会の参加者から 80%を超える満足度を得ることができた。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○新規申請事業者を増やすため、本年度の事業説明会を平日夜間と休日の日中（休日開催は初）の 2 回実施し、昨年度より多くの方が参加できる工夫がなされたことを評価する。また、説明会では、普段問い合わせや申請ミスが多い内容を重点的に丁寧に解説し、参加者満足度が 80%を超えるなど、きめ細やかなフォローも高く評価できる。 ○募集案内や申請様式に関しても、レイアウトを大幅に修正し、図や表を多用して申請者が理解しやすいように大幅な改善を行ったほか、「Q&A リスト」の作成により、申請の負担軽減に努めた点は特筆すべきである。 ○これらの取組みにより、応募件数が 54 件、そのうち新規申請が 21 件という成果につながった。今後も継続して周知を行い、本補助金をまだ活用していない方々や申請に至っていない団体への働きかけを強化し、さらなる利用促進を期待したい。 ○一方で、アートマネジメント人材（プロデューサー、アートマネージャー、コーディネーターなど）にかかる経費についても考慮を求めたい。採択された事業を実現するにあたっては、実演・創造といった「表現する側」の活動・労働のみならず、事業の企画や広報、各種の調整など「事業を支える側」の活動・労働も必須であり、幅広い府民に文化芸術の鑑賞機会を提供するためには前者同様に不可欠なものである。具体的にどんな場合のどのような経費を補助すべきかについては、本補助金の目的や要綱が対象とする範囲内で、申請された内容の事例ごとに判断していく必要があると思われるが、この点について、本補助金制度の補助対象経費を見直す際には、十分に検討されることを求めたい。

		○また、クラウドファンディングなど自己資金調達が普及する中で、自助努力により集めた資金を活動収入に含めることにより補助金交付額が減少したり、交付金額が 0 円になる事態が生じている。今後は、自己資金を対象活動の収入として扱うのか、運営全体の収入として別途評価するのか、明確な基準設定が必要であり、審査基準の見直しを行うことを期待したい。
A	輝け！子どもパフォーマー事業補助金	【概要】 文化を通じた次世代育成を図るため、府内の子ども（おおむね 6 歳から 20 歳まで）が参加し発表する活動を実施する団体又は個人に対して補助金を交付する。（上限 30 万円）※大阪府文化振興基金を活用 【実績】 ○令和 6 年度分 応募 20 件、採択 17 件 ○令和 7 年度分 応募 34 件、採択 18 件 ○事業説明会を 2 回開催（12/19 開催：参加者 19 名、1/18 開催：参加者 27 名） ○個別相談会を開催（1/18 開催：参加者 12 組） ○大阪府芸術文化振興補助金と同様の工夫により、今年度は昨年度より応募申請者を 14 件増加させることができた。次年度も引き続き本補助金の認知度の向上に努める。また、今年度実施した交付要綱や募集案内の更新・修正についてアンケート等により効果測定を行いながら、引き続き事業者が申請・活用しやすい補助金制度を検討していく。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 （大阪府芸術文化振興補助金における主な評価・提案に同じ）
A	半額鑑賞会	【概要】 優れた舞台芸能・芸術を通常の半額料金で鑑賞する機会を府民に提供し、芸能・芸術愛好家の裾野拡大を図る。（※府、（公社）日本演劇興行協会、（独法）日本芸術文化振興会の 3 者の共催事業として運営） 【実績】 ○府民だよりの、令和 6 年 4・5 月合併号、7・8 月合併号、9 月号、10 月号、12 月号、令和 7 年 1・2 月合併号、3 月号の計 7 回に事業の情報を掲載した。府政だよりを見た府民からは多数の応募があったため、抽選により当選者を決定した。 ○本事業の府民だよりにへの情報掲載は、府民、特に紙媒体に情報源を頼る世代への貴重な文化振興施策であり、次年度以降も継続して実施の予定である。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、各劇場との連携を通じて、大阪の文化芸術の鑑賞機会の充実を予算をかけずに実施できる事業である。平成 22 年度から継続的に取り組んできた実績があり、継続してほしい。 ○少子高齢化に伴い芸術愛好者層にも高齢化が進んでいる中、広報媒体にデジタル手段だけでなく、紙媒体を併用するなど、高齢層の鑑賞機会を考慮した丁寧な対応を実施している。 ○本事業は現在、大阪府を含む東京・福岡といった限られた地域でのみ実施されているものであり、全国的に見ても貴重な取り組みであるため、今後も大阪府として継続し、大阪府民の文化芸術鑑賞機会のさらなる充実を図ってほしい。
A	メセナ自販機、大阪府文化振興基金	【概要】 寄附型自販機（メセナ自販機、次世代育成型メセナ自販機）の普及を促進するとともに、基金への寄附文化の機運を醸成する。 【実績】 ○メセナ自販機・次世代育成型メセナ自販機 ・年度当初に、営業資料（学校向け・府有施設向け・企業向け）を更新し、各主体へ提供

		・新規設置場所開拓のため、府立学校事務長幹事会にて事業 PR を実施 ・府主催事業において自販機業者提供の協賛品（ペーパークラフト・飲料）を活用し、基金や自販機のさらなる PR を実施 ・令和 6 年度の自販機設置実績（前年度公募・今年度設置分を含む）： メセナ自販機… 3 か所／計 4 台を新規設置、次世代育成型メセナ自販機… 8 施設／計 13 台を新規設置 ・庁内の他部署と連携することで、台数の増及び事業の幅の拡大に繋げることができた。 （地域保健課（ギャンブル依存症対策基金）と共同にて 1 台設置、スポーツ振興課（なみはやスポーツ振興基金）と共同にて 2 台設置）また、文化財保護課（大阪教育ゆめ基金）と共同にて公募すべく調整を行っている。（R7 公募予定） ・食品（パン等）及びアイスクリームの自販機を初めて設置し、さらなる事業の幅の拡大につなげた。 ・文化振興基金寄附者へ感謝状を手交する際、自販機の紹介・説明・営業を行った結果、府内の私立大学へのメセナ自販機新規設置に繋げることができた。 ・次年度以降も自販機の設置場所を拡大できるよう、引き続き営業活動や他部署との連携等に努めていく。 ○大阪府文化振興基金 ・令和 5 年度の寄附の活用について実績報告書を作成し、府 HP に掲載 ・新規寄附者獲得のため、基金パンフレットを刷新し、府内市町村や文化関係施設へ配架 ・府 HP の内容を拡充（寄附者の写真やコメントを掲載等） ・内閣府主催の企業版ふるさと納税マッチング会に参加 ・令和 7 年 2 月末日現在の寄附実績額：8,407,294 円(前年度比 85.9%) ※上記は江之子島文化芸術創造センター魅力発信事業への寄附を含まない金額であり、この金額とは別に、江之子島文化芸術創造センター魅力発信事業への寄附として 46,631,000 円を受領 ・基金については、初めて寄附の実績報告書を作成したことに加え、パンフレットを大幅に刷新したことで、これまで以上に基金の概要や活用方法の理解を促す PR ツールを作成することができた。完成したこれらのツールは、府ホームページへの掲載、寄附者への送付、府主催事業における配布など、あらゆる機会を通して、基金の周知を図るため活用することができた。次年度以降も、さらなる寄附の獲得に向けて基金の周知を図る。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・自動販売機の設置拡大に向けた広報については、営業資料（学校向け・府有施設向け・企業向け）を刷新し、各主体への積極的な広報を実施するとともに、新規設置場所の開拓のため府立学校事務長幹事会で事業説明を行うなど、地道で効果的な努力を行った。その結果、次世代型メセナ自販機およびメセナ自販機の新規設置につながったことを高く評価したい。 ・大阪府の事業においても、自販機業者提供の協賛品を活用したペーパークラフトワークショップを複数回実施するなど、本事業の認知度向上と啓発活動を地道に進めている点は特筆すべき成果である。 ・大阪府文化振興基金への寄附獲得においては、初めて寄附の実績報告書を作成し HP に掲載したほか、パンフレットのビジュアル面を大幅に刷新し、高額寄附者への感謝状の贈呈など、寄附獲得に向けて様々な創意工夫を行ったことを高く評価したい。 ・一方で、自販機の設置台数は増加しているものの、個人や企業・団体からの基金への寄附申し込みが振るわず、前年度実績から約 20% 減少している。引き続き、上記の取り組みを継続するとともに、より効果的な広報活動や寄附促進の工夫を行い、自販機設置拡大と寄附金獲得の推進に努めてほしい。
A	大阪文化再発見事業	【概要】 府民に対する生涯学習講座等を実施する。（阪神奈公開講座フェスタ、おおさかふみんネット） ・阪神奈公開講座フェスタ：府及び大阪、兵庫の大学・研究機関（21 機関）でネットワークを組み、府県を超えた良質で高度な生涯学習機会の提供を行う。 ・おおさかふみんネット：府と府内市町村とのネットワークを構築し、生涯学習に関する情報交換及び広域的な学習機会の提供等の事業を行うことにより、生涯学習の総合的な推進を図る。

		【実績】 ○阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット ・「公開講座フェスタ 2024」の実施（令和 6 年 11 月 1 日～11 月 19 日） （講座数：19 講座／参加者数：延べ 595 名／受講者満足度：94.3%） ・今後も広報活動を徹底し、新規参加者の獲得及び継続参加者の増加を目指す。また、参加者の年齢層が年々高齢化しているため、引き続き様々な配慮を行っていく。 ○おおさかふみんネット ・「大阪府・大阪市共催講座 大阪のことば再発見！」の実施 （令和 6 年 11 月 22 日、11 月 29 日の 2 回連続講座）（参加者数：延べ 79 名） ・市町村との情報共有（随時） ・来年度も府市共催講座を継続して実施する予定である。また、今後も各市町村に積極的な情報提供を呼びかけ、その結果を踏まえながら、市町村にとってより生涯学習事業を実施しやすい形としていけるよう検討を進めていく。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○「公開講座フェスタ 2024」では、19 日間で 19 講座を実施し、延べ 590 名以上が参加するとともに、受講者満足度が 94.3%という高い評価を得た。特に、漫才作家で NSC（吉本総合芸能学院）講師の本多正識氏を迎えた特別講座では、これまで課題であった若年層の参加者が多く見受けられるなど、企画の工夫が功を奏したことを高く評価したい。 ○「おおさかふみんネット」では、「大阪のことば再発見！」と題した 2 回連続講座を開催し、各回 50 名の定員に対し合計で 100 名を超える応募が集まるなど、高い人気を博した。また、大阪府下の市町村の生涯学習担当者らとテーマや事例の情報共有を行うことにより、広域自治体としての役割を適切に果たしている点も評価できる。 ○さらに、本事業は広域自治体として文化振興における補完性の原理を遵守し、文化振興に課題を抱える市町村をサポートするという重要な役割を担っている。本事業を通じて、文化的な支援を必要とする地域へ大きな価値を提供している点は特筆に値する。2025 年には大阪・関西万博が開催されるが、引き続き大阪府下の市町村に対して文化講座の情報を届け、大阪の豊かな文化や芸術に対する誇りを醸成し、地域のシビックプライド向上につながるような展開を期待する。
B	大阪文化芸術創出事業 (大阪文化資源魅力向上事業)	【概要】 万博の開催を見据え、地域資源のさらなる魅力向上を図り、来阪者を府内各地に誘客するため、府内各地にある文化資源や地域の魅力を活用し、地元市町村等とも連携の上、文化財等を舞台とした公演等を中心とした文化芸術プログラムを行う。 【実績】 ○府内各地の文化資源（神社や文化財など）を舞台とした音楽や演芸、アートなどのプログラムを府内 6 か所（市立枚方宿鍵屋資料館・枚方市・顕証寺・八尾市、大阪大学会館・豊中市、岸城神社・岸和田市、谷岡記念館・東大阪市、近つ飛鳥博物館・河南町）で開催。文化資源の魅力を広く発信できるよう、地元市町村や地元団体と連携し、文化の魅力を体験していただくイベントや、地域のイベントと連動したプログラムを実施することで、より多くの方々に文化芸術に触れ、楽しんで頂けるよう取り組んだ。（総公演数：48 公演） ○主なプログラム： ・顕証寺仲秋の奏～久宝寺寺内町で箏曲と燈路を楽しもう～ ・鍵屋今昔演芸祭～市立枚方宿鍵屋資料館で今昔の演芸を楽しもう～ ・まちなか MUSIC DAY～大阪大学会館でいのちをテーマに音楽を楽しもう～ ・岸和田ミュージック&アートフェスタ～岸城神社で世界の楽器と書画を楽しもう～ ・アート&ジャズ ハーモニー～谷岡記念館でファクトリーアートとジャズを楽しもう～ ・かなん梅香寄席祭～近つ飛鳥で上方演芸を楽しもう～ 上記の他、東大阪市のまち工場と連携しファクトリーアートの制作を行ったほか、顕証寺仲秋の奏に先

		立ち、燈籠づくりワークショップを実施した。 ○市立枚方宿鍵屋資料館では、今昔をテーマとした上方演芸の公演を行うと共に、五六市や近隣店舗等との連携プログラムを展開。東大阪市では、まち工場のアーティスト支援の下、作品制作を実施するとともに、大阪商業大学と連携した共催プログラムを実施。八尾市では地域の協議会と連携しワークショップを開催。河南町では地域のマルシェと連動したプログラムとするなど、地域連携を強化した。 ○企画にあたっては各市町や大学、地域の文化芸術団体と連携し企画を進めるとともに、企画にあたってのノウハウの蓄積を行った。また、来年度は万博開催期間を含めたプログラムを実施するため、今年度のプログラムと並行して来年度のプログラムの企画・検討を進めた。 ○3か年の取組みの最終年度にあたる来年度においては、専門人材が中心となって、市町村等とのさらなる連携強化を図るとともに、地域資源に応じた、より充実したプログラムとなるよう展開する。また、地域が自立的にアーティストを支援する体制整備を行うなど、地域が持続的に文化芸術プログラムを行えるよう、ノウハウやネットワークの蓄積を図る。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○広域自治体として、大阪・関西万博の開催を見据え、地域の文化資源の魅力を向上させて来阪者を府内各地へ誘客する取り組みとして、各市町村や関係機関等と連携した特色ある文化プログラムを6件48公演、滞りなく実施し、多くの参加者を集めたことは大きな成果として評価できる。 ○また、本事業では大阪府文化課と受託事業者の間に専門人材を起用することで、各文化芸術分野の特性と地域性のバランスを考慮しながら、出演者の選定からプログラム内容の決定、運営実施に至るまで、質の高い文化芸術活動と円滑な事業運営を両立させたことを高く評価する。 ○さらに、本事業は大阪府内の文化資源の活用だけにとどまらず、アートマネジメントの専門人材育成にも大きく貢献するものとなっている。専門的な人材やマネジメント技術へのアクセスが難しい地域に対しても、広域自治体として大阪府が積極的に関与することにより、地域の文化資源活用や専門人材の育成、ノウハウの蓄積が可能になる。本事業を通じて育成された専門人材が、将来的には大阪の文化振興をリードする役割を担うことが期待されるため、事業期間の残り1年間においても、この重要な目標の達成に向けて更なる進展を望む。
B	大阪文化芸術創出事業 (文化芸術活性化事業)	【概要】 大阪が誇る様々な文化芸術プログラムを実施し、文化芸術活動を活性化させ、万博開催年での大規模な文化芸術祭典をめざす。併せて、インバウンドをはじめとする来阪者が文化芸術の魅力に触れ、楽しむことができる環境整備を行う。 【実績】 ○大阪国際文化芸術プロジェクト ・大阪・関西万博に向け、大阪の文化芸術の魅力発信を強化する「大阪国際文化芸術プロジェクト」として17件のプログラムを実施（来場者数、来場者アンケートについては現在集計中） [主なプログラム] 「OSAKA SKIT theater」 インバウンドに向けたノンバーバルのショートプログラム 「OSAKA ART & MUSIC WEEKEND」 万博記念公園全体を活用した音楽とアートの野外プログラム 「薪能 2024」 全国的に著名な能楽師や狂言師を招聘し、大阪城西の丸庭園で開催する大規模な薪能 「OSAKA ART MARKET」 気軽にアートに親しみ、アートを楽しむ展示・販売会 「大仙茶会 2024」 大仙公園での野点と和楽器コンサートの野外プログラム 「第五回 大阪落語祭」 次代を担う上方落語家を中心に、東西の金看板も加わり豪華に開催する公演 「春の謡会 2025」 大槻能楽堂で能楽とアコースティックライブを同時に楽しめるプログラム 「TRUNT UP OSAKA」 音楽とダンスが融合する唯一無二のスペシャルダンスライブ 「立春歌舞伎特別公演」 上方歌舞伎役者と江戸歌舞伎役者が共演する歌舞伎公演 「名曲コンサート in 大阪～時を超えたポップスの名曲を」 世代を超え歌われる名曲のコンサート ・万博開催年度には国内外からの多くの来阪者が見込まれることから、今年度はインバウンドを意識したプログラムの実施など、大規模な文化芸術祭典開催の礎となるプログラムを展開した。また、特に2年

目の実施となるプログラムについては、1年目の実績を踏まえてバージョンアップを図るとともに、引き続きプログラムと連携した旅行商品の造成、多言語での SNS や HP での情報発信、インバウンドが多く集まる場所での積極的アプローチなどの取組みを進めた。一方で、国内外（府外）への情報発信には依然苦戦しており、国外や府域外に視点を向けた情報発信が今後引き続き必要と認識。いよいよ来年度に迫った万博開催時の大規模な文化芸術祭典の実現に向け、インバウンドを含む国内外からの来阪者に向けた魅力あるプログラムとなるよう、プログラムの磨き上げを加速するとともに、より効果的な広報に努めていく。

○環境整備

- ・文化芸術コンテンツの磨き上げ

OSK 日本歌劇団や天満天神繁昌亭、大阪城西の丸薪能 2024 の多言語化等を実施。

- ・旅行商材の開発

- ・OSK 日本歌劇団や天満天神繁昌亭のコンテンツを含んだ旅行商材（計2本）の開発

- ・海外の旅行会社を対象とした FAM トリップの実施

（海外の旅行会社4社（4名）が参加／10月12日～14日）

- ・海外の旅行会社を対象とした商談会の実施

（海外の旅行会社4社（4名）・文化施設等7社（12名）が参加／10月15日）

- ・文化施設等を対象としたセミナーの実施

（文化施設等11社（12名）が参加／11月28日）

- ・国内の旅行会社を対象とした商談会の実施

（国内の旅行会社9社（10名）・文化施設等12社（16名）が参加／12月13日）

- ・海外に向けた広報活動（HP や SNS(Facebook、Instagram)での情報発信）の実施

（各 SNS ごとに8回ずつ実施（2月12日時点））

- ・磨き上げた薪能公演や FAM トリップ、商談会、セミナーの参加者に実施した満足度調査ではそれぞれ高い評価を得た。文化施設等は自らを販売するための販路やノウハウがないことから、今後旅行事業者と連携してさらに販路開拓を支援する必要がある。次年度は、令和5年度及び令和6年度の取組みを踏まえ、文化芸術コンテンツの磨き上げや文化施設等の販路開拓の支援等により、府内の環境整備を進めることで、万博後に当該施設等が独自にインバウンド受入れができるよう自走化をめざす。

【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

○大阪国際文化芸術プロジェクト

- ・万博開催年度には国内外から多数の来阪者が見込まれることから、大阪独自の文化芸術の魅力を発信し、インバウンドを意識したプログラムを積極的に展開したことは高く評価できる。特に、2年目となる今年度は、前年の実績を活かしたプログラムのバージョンアップに加え、旅行商品の造成や多言語での SNS・HP の情報発信、インバウンドの集まるエリアでの広報活動など、集客面においても具体的な成果を上げている。

- ・しかし、国外および府域外への情報発信については依然として課題が残るため、引き続き国内外に向けた戦略的かつ効果的な広報の充実を図ってほしい。また、興行的な集客イベントに偏りすぎると、文化芸術祭典の多様性や本来の趣旨が損なわれる恐れがあることから、今後も大阪独自の多様な文化芸術を積極的に紹介することを意識し、多くの関係者が参加できる機会創出に努めてほしい。

- ・本事業は、アーティストや文化芸術団体だけでなく、アートマネジメント分野の才能ある人材が広く参加できる公共事業としての意義も大きい。事業の残り1年間で多様な人材の参加を促進し、大阪の文化芸術の真価をさらに引き出すような環境整備を進めることを期待したい。

- ・来年度に迫った万博開催時の文化芸術祭典に向けては、インバウンドを含む国内外からの来阪者に大阪独自の魅力が伝わるよう、引き続きプログラム内容の一層の磨き上げと効果的な広報活動を実施してほしい。

- ・また、本事業のような大規模事業においては、多くの人材や事業者が関与するため、受託事業者においては厳格なコンプライアンスの遵守が徹底されているとはいえ、各種ハラスメントや労働環境等に関するモニタリングを末端まで十分に行い、市民の信頼を確保した上で事業を進めるよう引き続き注意を払ってほしい。

		○環境整備 ・薪能公演や FAM トリップ、商談会、セミナーなどの参加者への満足度調査において高い評価を得るなど、コンテンツの質の向上や環境整備の成果が現れていることを評価する。 ・文化施設等については、自施設をインバウンド向けに販売するためのノウハウや販路が不足していることから、引き続き旅行事業者との連携を強化し、販路開拓や自走化に向けた支援を積極的に行ってほしい。 ・次年度は、令和 5 年度及び令和 6 年度の取り組みを踏まえて、文化芸術コンテンツの磨き上げとともに、文化施設等が万博終了後も独自にインバウンド対応が可能となるよう、継続的な環境整備の推進を期待する。
B	SAKISHIMA LIGHTING ART 事業	【概要】 「大阪・関西万博」の会場からも目視可能な咲洲庁舎の外壁を活用し、大規模なデジタルアート作品を展開する。 【実績】 ○事業の委託先として以下の通り事業者を選定した。 (受託事業者：光る共同企業体 (Tokyo Lighting Design 合同会社・カラーズクリエーション株式会社)) ○万博開催期間中のプログラムの展開に向け、以下の工事等を実施した。 電気工事 (1 月 19 日・20 日) レーザー発振機器設置工事 (1 月 18 日) 光透過防止シート貼付け工事 (2 月 3 日～2 月 7 日) ○レーザー照射に向け、さきしまコスモタワー周辺自治会への説明 (2 月 5 日) を実施した。 ○試験点灯を実施した。(12 月 3 日、2 月 18 日～2 月 21 日) ○気鋭のクリエイターにより「いのちの彩り、未来の輝き」をテーマとしたコンテンツの制作を行うとともに、若手クリエイターや学生クリエイターに作品 (デジタルアート) の創作や発表等の活躍の機会を提供するため作品公募を行うこととし、公募にむけた準備を行った。その他、イベントリリースに向けた調整を行った。 ○今年度は次年度のプログラムの展開に向けた準備を着実に進めることができた。次年度に実施する、デジタルアート制作にかかるワークショップにおいては、気鋭のアーティストや学生等に参加していただき、活躍の機会を提供するとともに、人材育成に取組み、大阪におけるアート活動のさらなる振興を図る。また、公募するアーティストの作品を照射することで、アートによる大阪の都市魅力の創造・発信を図る。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は本年度より 2 か年事業として開始されたが、初年度は受託事業者の選定から、必要な設置工事、試験点灯までを無事に実施できたことを評価したい。 ○次年度は、若手アーティストや学生を対象に公募を実施し、応募者向けの説明会やワークショップなどを開催する予定であるとのことで、大阪におけるデジタルアートの普及促進のみならず、人材育成にも寄与する取り組みとして期待できる。
B	大阪府所蔵 美術作品活 用活性化事 業	【概要】 所蔵美術作品を府内各地に展示し、府民に身近な場所での鑑賞機会の提供を図るとともに、観光資源としての活用を図ることで、大阪府を訪れる観光客の増加につなげていく。 【実績】 ○令和 6 年 7 月に特別顧問・特別参与からの助言を受け、「アート作品の活用・保全に向けた最終報告」を公表。本報告を受けて事業を実施している。 ○万博記念公園・モノレール美術館・大阪公立大学の展示作品につき清掃・洗浄・展示状態の点検を実施 ○6 箇所、計 18 作品の新たな作品展示を実施。(令和 7 年 3 月時点) さらなる増に向けて継続して各所調整中。

		○また、万博会場内でのコレクション展に展示する作品の選定を委託事業者とともに実施した。 ○来年度は、「アート作品の活用・保全に向けた最終報告」の内容を踏まえ、さらに関係機関と連携し、下記の取組み等を行っていく。 ・展示場所の開拓や展示場所のリニューアル ・万博での展覧会の開催や府内各地における美術作品の展示場所をめぐる鑑賞促進イベントの実施 ・大型立体作品等を保管・展示する「見せる収蔵庫」の設置 ・非常勤学芸員の雇用 ・中長期的な活用・保全の計画の策定 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○大阪府所蔵美術作品活用活性化事業では、作品の修復や展示環境の整備が着実に進められており、また、府内施設や公共空間等の新たな展示場所の開拓が進展したほか、2025 年の大阪・関西万博に向けたコレクション展への展示作品の選定作業など、具体的な成果が見られることを評価する。 ○本事業の遂行にあたっては、所蔵作品についての専門的知識や理解に加え、作品設置場所の特性や地理的環境など大阪への深い理解が不可欠である。そのため、地元の人材が関われるトレーニングの機会としても機能するような取り組みを進めていただきたい。 ○また、「アート作品の活用・保全に向けた最終報告」の内容を踏まえ、来年度以降も関係機関との連携を図り、報告書に示された必要な取り組みを着実に遂行していくことを期待する。
B	大阪府 20 世紀美術コレクション 魅力発信事業	【概要】 令和 5 年度に開設した「大阪バーチャル美術館」において、大阪・関西万博に関連するテーマ等で展示数を拡大させることにより、現代美術や大阪の魅力を発信し、万博の機運醸成と大阪への誘客を図る。 【実績】 ○バーチャル展示 2 月末に、万博に関連するテーマの約 100 点の展示を新たに開始するとともに、展示場のプラットフォームを、利用者にとってより操作が容易となる「Matrerport(マターポート)」へ変更。 ○デジタルアーカイブ 収蔵品管理システム(I.B.MUSEUM)の導入による機能強化を実施。昨年度に引き続き、デジタルアーカイブのデータ整理等、利便性の向上を図った。 ○実績値（令和 7 年 2 月末現在） ・ホームページ訪問数：38,329 件、バーチャル美術館訪問数：8,858 件 ○今年度は、バーチャル展示の操作性等、前年度の課題に対応することができた。また、バーチャル展示での展示数増やデジタルアーカイブのデータ整理等が美術館への美術作品貸出のきっかけにつながるなど、コレクションの認知度向上にも寄与することができた。 ○定期的な SNS での発信、公民連携協定締結企業と連携した情報発信も実施することができた。 ○次年度以降は、引き続き大阪バーチャル美術館の利便性を高めていくとともに、作品の良さが伝わるようなバーチャル美術館の運営に取り組んでいく。また、大阪・関西万博に関した取り組みとして、万博会場で開催する展覧会を 3D で再現した展示室等、新たな展示室を開設するとともに、万博会場内で開催する展覧会や展示場所をめぐる鑑賞促進イベントと連携した展示作品や周遊ポイント等の情報発信などを実施していく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○バーチャル展示のプラットフォームを操作しやすいものに変更した上で、万博関連テーマを中心に約 100 点の作品を展示した 4 つの企画展示を実施するなど、所蔵美術作品をコンセプトに沿って楽しめる工夫がなされており、着実に進展している点を評価する。また、バーチャル展示をきっかけに美術館への作品貸出しにつながった事例もあることから、本事業の有効性が確認された。 ○デジタルアーカイブでは、収蔵品管理システムを導入し、機能の強化を行ったことにより、利用者だけでなく管理を担当する学芸員にとっても使いやすいシステムとなったことを評価する。

		○バーチャル展示は、美術鑑賞のみならず教育現場での活用にも大きな可能性があるため、今後は教育機関への積極的な働きかけを通じて、より幅広い層への普及促進を図ってほしい。 ○また、デジタルアーカイブは資料の保存と研究のためのアクセスを目的としており、国内だけでなく海外からの利用も想定されるため、今後は英語表記の充実など多言語対応の強化を進めてほしい。
B	府庁本館活用事業	【概要】 府庁本館等を文化芸術活動の場として提供し、府内で舞台芸術活動を行う団体の自主的な取組を促進する。 【実績】 ○府庁本館活用事業：のべ2団体からの申し込みがあり、計2回実施。 ・第1回目：特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団 「関西歌劇団 Presents ≪カヴァレリア・ルスティカーナ≫、≪道化師≫によせて」 (8月27日／府庁本館5階 正庁の間) 観客数：70人 ・第2回目：大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎生徒 「クラシックの音楽の系譜をたどる（中世のグレゴリオ聖歌から古典派まで）」 (9月17日／府庁本館5階 正庁の間) 観客数：124人 ・第2回目の事業については、報道提供を行ったところ、令和6年9月12日の読売新聞（朝刊）で広報記事を掲載頂けた。また、大阪市中央区のオフィシャル地域情報ポータルサイトにもイベント情報を掲載頂くことができ、多数の集客につながった。 ○フェスパ次世代シアター事業：申込なしのため、実施せず。 ○大阪府 HP の募集ページにおいて、募集团体の公募について手続き方法の工夫を行ったが、申込件数が少なかったため、今後は募集チラシの作成を検討する。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本年度から再び府庁本館5階「正庁の間」が利用可能となり、歴史ある府庁舎を府民に開かれた文化活用の場として提供する取り組みは、大阪府民の文化芸術への理解促進と行政職員が文化芸術に触れる貴重な機会となっており、大変意義深いものである。 ・参加団体募集の広報面では、申請手続きをより明確に伝えるために大阪府 HP に「手続きの流れ」を追加したり、昨年度に続いて公演の様子を撮影し、ダイジェスト版を文化課の YouTube チャンネルで公開するなど、積極的な努力が見られた。 ・本年度は2回の開催となったが、第2回目「クラシック音楽の系譜をたどる（中世のグレゴリオ聖歌から古典派まで）」では、大手新聞社の朝刊および大阪市中央区のオフィシャル地域情報ポータルサイトでの広報掲載により、当日120名を超える集客に成功した点を高く評価したい。 ・一方、申請件数はまだ少ない状況にあるため、興味を持つ団体が事業の内容や申請手順をあらかじめ理解できるよう、引き続きホームページの改善や、初めて応募する団体にも事業のイメージが伝わりやすくなるような工夫、広報努力の継続が必要である。
B	大阪文化賞・大阪文化祭賞	【概要】 大阪の文化芸術に多大な貢献のあった方等を顕彰する。（大阪文化賞、大阪文化祭賞） ・大阪文化賞：直近の1年間において、文化芸術の振興に著しい功績のあった方もしくは団体を顕彰する。 ・大阪文化祭賞：大阪の文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府内で行われた公演の中から優れた成果をあげたものに対して賞を贈呈する。 【実績】 ○大阪文化賞 ・R6.9.1 推薦受付(～9.30)／R6.12.23 選考委員会／R7.3.16 贈呈式 ・推薦件数を増やすよう X での広報、チラシの配架、府イベントでの周知、芸術文化団体へのメール案内

		等の広報を行った結果、府民からの推薦が件数で 11 件、候補者数で 7 件増加した。 ○大阪文化祭賞 ・ R6.8 上期審査委員会／R7.1 下期審査委員会／R7.1 運営委員会／R7.3 贈呈式 関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが大阪府内で開催された公演の中から審査を行い、大阪文化祭賞 3 件、大阪文化祭奨励賞 6 件の贈呈を決定した。 ○来年度は引き続きこれらの賞の知名度向上に努める。今年度の受賞者にも SNS などへの掲載を働きかけ、より周知の機会を増やす。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○大阪文化賞および大阪文化祭賞は、大阪府内において文化芸術分野で優れた業績を挙げた人々を顕彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興に大きな役割を果たしている。本賞は長い歴史を持つ権威ある顕彰であり、受賞者にとっては活動の励みとなり、大阪の文化芸術の豊かさを広く示す機会として評価できる。 ○今年度は大阪文化賞の推薦件数および候補者数を増加させるため、SNS 等を活用した広報活動を実施した結果、府民からの推薦件数が 11 件、候補者数が 7 件増加するなど明確な成果をあげた。この取り組みは、推薦委員や選考委員だけでなく一般府民にも大阪の文化芸術活動に関心を向ける機会を提供しており、その意義は大きいと認められる。 ○将来に向けては、実験的な表現や分野を超えた複合的な活動も賞の対象とすることが望まれる。既存の表現分野の可能性を広げる革新的な取り組みにも注目することが重要であるため、引き続き、時代の変化に対応した審査を期待したい。
B	山片蟠桃賞	【概要】 近世大阪の生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなみ、日本文化の国際性を高めるためにふさわしい優秀な著作とその著者を顕彰する。(3 年に 1 回) 【実績】 ○第 28 回審査委員会を令和 6 年 12 月 11 日に開催し、受賞者 1 名を決定。(令和 7 年 4 月頃に発表予定) ○予定していたスケジュール通りに審査委員会を開催し、受賞者を決定することができた。 ○次年度は、年度中に実施する贈呈式に向けた調整や準備を進めていく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○「山片蟠桃賞」は、大阪のみならず日本が誇るべき国際的な文化賞であり、その長い歴史は大阪にとって重要な文化資産であると評価できる。地元の府民や国内来訪者を対象とする文化事業が多い中で、本賞は大阪の文化的水準の高さを世界へと発信することを目的としており、その意義と重要性はますます高まっている。本年度は推薦書の受付や翻訳、審査委員会の開催により、第 28 回受賞者を決定できたことを評価する。 ○また、受賞者の功績を称える授賞式のみならず、芸術機関や教育機関と協力して一般市民や学生向けの講演会を実施していることも、本事業の特色である。これらの活動は、受賞者の功績を広く認知してもらうだけでなく、「山片蟠桃賞」自体の知名度向上にも寄与しており、引き続き取り組みを推進してほしい。 ○一方で、本賞の名称の由来である近世大阪出身の世界的町人学者・山片蟠桃については、一般的な認知度が未だ高くないのが実情である。今後は、山片蟠桃の生涯や思想、著書、その功績に関する情報発信をさらに強化し、より多くの人々がその業績を知る機会を提供することを望む。
B	大阪府アーティスト情報発信事業 (大阪府アーティスト)	【概要】 アーティストの情報を広く府民に紹介し、地域や学校における府民の自主的な活動のサポート（申し出があったアーティストの情報を随時登録）

	バンク)	【実績】 ○新規登録件数：個人 12 件、団体 4 件 ○変更登録件数：個人 3 件、団体 1 件 ○全登録者数：個人 96 件、団体 88 件 ○各アーティストの個票を見やすくするため、ホームページのレイアウトを見直し、登録数の多い分野は個票を分けて掲載した。 ○大阪府で実施する施策の中で、補助金事業や大阪マラソンの大会告知ポスター用原画（メインビジュアル）の公募についてなど、登録者が利用可能な情報提供を行った。 ○アーティストバンクの内容が常に最新情報となるよう、登録者に対し情報の更新依頼を行った。 ○引き続き、アーティストバンク利用者にとって活用しやすいホームページのレイアウトを目指すとともに、また、府の事業等のお知らせも行っていく。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本事業は、予算が付いておらず職員の手で運営されているため、できることに制約がある状況にあるが、そのような中でも登録アーティストにこまめに連絡を取り、写真や掲載内容のアップデートを行うなど、限られたリソースを活用して丁寧な運営を心掛けている点を評価したい。 ○今年度は、登録者全員に連絡を取り、情報整理や登録情報のアップデートなどきめ細やかな対応を行っている。登録者の中には実際に出演の依頼につながるケースも見られており、そのような成果を広く周知するとともに、依頼者がどのような形でアーティストバンクを活用できるかの例示を HP 等で掲載することも検討してほしい。 ○今後は、登録者へのアンケートを実施し、本アーティストバンクにどのような機能を求めているかを調査することや、登録時や情報変更時にアンケートを取るなど、より使いやすく利用者のニーズに沿った情報収集を行ってほしい。 ○また、本データベースはアーティストや団体を府民に紹介するだけでなく、行政や自治体と有事の際に連絡を取る手段としても活用されることが期待できる。登録アーティストや団体にとって、緊急時のコミュニケーション手段やライフラインとしての役割を持つ可能性があるため、本データベースが持つ重要な役割を広く認識してもらえよう情報発信に一層努めることが望まれる。これにより、多くのアーティストや団体が本データベースを活用し、有事の際に行政や自治体との連携がスムーズに行われるようにしてほしい。
C	上方演芸資料館(ワッハ上方)管理運営事業	【概要】 全国で唯一の演芸資料館として、資料等の収集・保存・展示等の取組を通して、上方演芸の保存及び振興を図るとともに、府民に上方演芸に親しむ場を提供する。 【実績】 ○所蔵資料を活用した展示の開催 (年 3 回以上を目標とし、今年度は年 4 回を実施) ・企画展示「EXPO と漫才ブーム展～昭和・平成・令和の漫才師たち～」(R6.3/15～9/23) ・企画展示「EXPO と上方演芸展～笑いの博覧会～」(R6.10/4～R7.3/9) 前期展示では 1970 年の大阪万博を振り返り、当時起こっていた漫才ブームからその後の漫才界への変遷をたどり、昭和から令和にかけて活躍した漫才師を紹介する展示を行った。下期展示では、大阪・関西万博の開催が令和 7 年 4 月に迫る中、会場を「上方演芸の博覧会」に見立て、落語や漫才など上方演芸の各ジャンルでこれまで活躍された演芸人や、いま話題の演芸人を収蔵資料とともに紹介する展示を行った。 ・「上方演芸の殿堂入り」演芸人展示 (R6.10/1～R7.9/30) ・館外展示「EXPO と上方演芸」展のうち、落語資料の一部を池田市立上方落語資料展示館（落語みゅーじあむ）で展示(R6.10/19～11/4) アンケートで 87.7%の満足度を得るなど好評を得た。 ○ワークショップ等の上方演芸の魅力を伝えるイベントや講演等の実施 (月 3 回以上を目標に、3 月 1 日時点で年 69 回を実施)

		・毎月原則第1・第3土曜日に体験型講習会（ワークショップ）を開催（R6.4/20～R7.1/18、計17回） ・上方演芸講演会（6/15 藤田曜氏、12/7 井上宏氏の計2回） ・在阪放送局とのコラボ企画事業「EXPO と漫才ブーム～あの70年代！懐かしの上方漫才黄金期」を実施（7/28） ・毎月原則第2・第4土曜日にアマチュア演芸団体と共催事業を開催（R6.4/13 ～R7.1/23、計23回） ○SNS等を活用した情報発信 （年300回以上を目標に、R7.2末時点で282回を実施） ○大学と連携した、新たな年齢層の来館につなげるイベントの開催 （年1回以上を目標に、R7.1末時点で4回を実施） ・大学落語研究会等と連携したコラボ寄席を開催（10/13 大阪公立大学、11/10 関西大学、11/30 大阪大学、1/12 大阪芸術大学）4大学とコラボ寄席を実施することで、若い世代が当館を利用する絶好の機会とできたと同時に、来館者からも好評を得た。 ○第27回上方演芸の殿堂入り名人表彰式の開催（8/6） ○館内の体験エリアで、体験型講習会及びアマチュア演芸団体による実演会を実施。夏・冬休み期間のイベント月間には、子どもや家族向けの内容にするなど、若い世代を対象にして開催。子どもたちへ上方演芸に触れる機会を提供するため、同休み期間に合わせて、展示資料を活用したクイズラリーを開催するなど、様々な年齢層の来館者が楽しめる工夫を行った。 ○来館者へのサービス向上として、昨年度に引き続き、館内で上映している番組名・出演者等を記載したキャプションの掲出や展示資料の一覧を作成し配布した。また、来館者の満足度向上や来館者増に向けて、ワークショップ参加者でアンケートを記載いただいた方や事前申し込みいただいた団体来館者に対して、オリジナルグッズを制作し、配布した。 ○上記の取組により、入館者の満足度（「満足」＋「やや満足」を足した数値）は、80%以上となっている。（11月末83.0%） ○そのほか、インターンシップ生を受入れ、人材育成に寄与するとともに、資料館の役割について理解を深めていただくことができた。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○本年度の上方演芸資料館では、前回開催の大阪万博（EXPO'70）をテーマとして、1970年代の漫才ブームから現代に至るまでの漫才界の変遷をたどる企画展示や、博覧会形式での演出を取り入れた企画展、さらに各ジャンルで活躍する演芸人と収蔵資料を関連づけて紹介する展示など、趣向を凝らした企画展を3回実施し、高い入館者満足度を実現したことを高く評価する。 ○また、池田市立上方落語資料展示館（落語みゅーじあむ）での出張展示を積極的に行い、施設外での活動を通じて本施設や上方演芸の認知度を高め、新たな層の来館者開拓に努めている点も評価できる。 ○大学連携事業についても、今年度は4大学とコラボ寄席を実施し、若い世代が本施設を利用するきっかけを創出し、来館者からの評価も非常に高かった。またインターンシップ生を積極的に受け入れ、人材育成や資料館の役割についての理解促進に貢献している。 ○資料館本来の役割であるレファレンス対応についても、丁寧かつ迅速に行われており、提供した資料が放送や著書などで明確にクレジット表示されるなど、その精度の高さが評価されている。この対応が新たな資料寄贈につながる事例も見られ、特筆に値する。 ○本施設は千日前という国内外の観光客が行き交う絶好の立地に位置していることから、今後は観光客が隙間時間を利用して訪れることができるような戦略的な動線整備が望まれる。さらに、海外向け広報を積極的に行うことにより、一層の来館促進を期待する。
C	江之子島文化芸術創造センター（enoco）管理運営事業	【概要】 アーティスト等が交流・連携・協働する拠点としての機能を強化し、文化芸術の創造及び振興を図るとともに、府所蔵美術作品の管理・活用や次世代の担い手の育成にも取り組む。 【実績】 ○令和7年1月末現在での実績値：

		来館者数（延べ）：101,390 人 文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ人数：1,081 件 enoco との創造的活動を協働した個人・団体等の数：600 件 所蔵作品活用点数：1,283 点／年 企画展：3 回 貸館利用率＜多目的ルーム 1～4（展示室）＞：59.9% ＜多目的ルーム 5～12（展示室以外）＞：54.5% ○センターの機能が発揮できるよう、指定管理者と定期的に打合せを行い、事業計画の推進に取り組み、企画展示やワークショップ等を開催した。また、文化芸術に関心のない人にも広く関心を持っていただくため、音楽イベントや他部局・他事業と連携した「enoco 出張ワークショップ」に指定管理者と共同して取り組んだ。 ○大阪府 20 世紀美術コレクション魅力発信事業、大阪府所蔵美術作品活用活性化事業についても、指定管理者と連携を図りながら実施することができた。 ○来年度も、指定管理者と連携し、当センターの認知度や貸館利用率の向上、所蔵美術作品の新たな活用や状態確認及び修復に取り組んでいく。 ○あわせて、enoco の認知度向上や訪日利用者への対応等を目的に、近隣府民からの寄附を財源として、屋外デジタルサイネージの設置及びその放映コンテンツの制作を行う（江之子島文化芸術創造センター魅力発信事業）。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○江之子島文化芸術創造センター（enoco）管理運営事業については、年度当初に設定した来館者数、文化芸術関連活動に従事した個人や団体の延べ人数、enoco と創造的活動に協力した個人や団体数、所蔵作品の活用件数など、すべての項目で概ね目標値を達成しており、企画展についても目標の 2 回を上回る 3 回を実施したことを評価したい。 ○貸館利用率に関しては、空調設備の工事などの影響により目標利用率に若干届かなかったが、これは致し方ない状況である。令和 7 年 3 月からは大阪市立美術館が改修工事を終え再開館するため、本施設に一時的に移っていた利用者が戻ることも想定される。これを踏まえ、継続的に利用者を獲得するための工夫や新規利用者を呼び込む取り組みを進めていただきたい。 ○また、文化芸術への関心が低い層にもその魅力を広めるための新たな試みとして、音楽イベントや他部局・他事業と連携した「enoco 出張ワークショップ」を施設内外で開催し、幅広い層へのアプローチを展開したことは高く評価できる。 ○指定管理者は 3 年目を迎え、運営側と学芸員側の協働にも落ち着きが見られ、大阪府が運営する現代アート拠点としての責務を再認識しつつあると判断する。しかし、指定管理業務に加えて美術作品の活用や収蔵作品の魅力発信など業務が拡大しており、現場の人材、特に学芸員に過度な負担がかかる恐れがある。限られた予算の中で適切に対応しつつ、大阪の現代アートの未来を見据えた事業展開を図っていただきたい。
C	オーケストラハウスの管理	【概要】 オーケストラハウス（服部緑地内）について、計画的な修繕の実施等により、適切に維持管理を行う。また、日本センチュリー交響楽団の練習拠点として、オーケストラハウスの練習室の貸付等を行う。 【実績】 ○オーケストラハウスの施設管理については、適宜補修などを行った。 <補修工事等> 【1 月】合奏室照明設備工事（LED 化） 【2 月】2 階事務室空調設置工事 【3 月】誘導灯ランプの交換、雨樋清掃、2 階清掃 <定期点検> 【8 月】法定定期点検

		【6月・12月】空調定期点検 【9月・3月】消防用設備機器点検 ○上記のとおり、法律上必要な点検や施設運営に必要な修繕など、適切な施設管理を実施した。引き続き、施設を安全に利用できるよう補修工事等を行い、適切な管理に努めるとともに、今後の大規模修繕や建物の活用方針等についても引き続き検討する。 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○オーケストラやその他大型の演奏団体にとって練習拠点の確保は極めて重要であり、本施設が使用団体の芸術水準向上に大きく寄与している。また、使用する楽団が質の高い音楽活動を継続することで、地域住民や子どもたちを含む幅広い層への文化的な成果の還元が可能となっている。特に大阪では、こうした施設の充実が地域の音楽文化の発展に直接つながっており、その意義は高く評価される。 ○しかしながら、現在施設の老朽化が進行し、補修が必要な箇所が増加している状況にある。単なる修繕に留まらず、将来的な施設の活用方法についても検討を行うべき時期に差し掛かっている。今後は関係機関との調整を進め、施設が引き続き地域の音楽文化の発展に貢献できるよう、適切な対応を図ることを期待する。
C	府内市町村との連携	【概要】 府内市町村に対する様々な情報の提供、文化行政担当者間における意見交換や府内での先進事例の共有、市町村と連携した文化芸術事業の実施など 【実績】 ○府内市町村間の円滑な連絡体制の整備のため、各市町村の担当者連絡名簿を作成し、市町村へ共有を行った。 ○令和6年6月には府内市町村文化行政主管課長会議を開催し、文化庁の取組み紹介や、府事業、大阪アーツカウンシルの取組み、市町村における事例について情報交換する場を設けた。 ○令和7年2月には、府内市町村における取組み事例集を更新し、市町村間に共有を行うことで、市町村間での連携の推進及び市町村の文化事業の計画性や質の底上げを図るとともに、公表できる取組みについては府HPに掲載することで、府民に対し市町村の取組の周知を行った。 ○次年度は、より多くの市町村と情報共有・連携の促進につながるような事業内容の検討に努めるとともに、府の文化事業の紹介及び府内市町村における取組み事例集の継続作成・活用について検討する。 【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ○府内市町村文化行政主管課長会議は、文化芸術に関する先進事例の共有や市町村間の連携促進、また文化芸術関連条例の制定および基本計画の策定を目的として開催されている。本年度の会議では、文化庁の取り組みや大阪府・大阪アーツカウンシルの事業、市町村での具体的な取組事例について活発な情報交換がなされた。これにより、国や府の文化施策に対する市町村の理解が進むとともに、市町村との連携強化に寄与する結果となった。引き続き、本会議を有効に活用し、より広域的な連携を深めて大阪府全体の文化振興を推進してほしい。 ○また、昨年度に引き続き作成された市町村の文化事業に関する事例集は、府内市町村がそれぞれの文化事業を計画する上での参考となり、各市町村の事業の質や計画性の底上げに貢献している。さらに、この事例集を大阪府ホームページで公開することにより、市町村の取り組みを広く府民に周知できた点を評価したい。 ○一方、行政の職場では職員が定期的に入れ替わるため、文化芸術の公共的価値や、公共事業としての位置づけ、地域社会における役割についての理解が一貫していない可能性がある。特に2025年の大阪・関西万博の開催を控える現在、府全域の文化芸術資源を活かした魅力発信の好機であることを踏まえ、大阪府と各市町村が文化芸術資源とその活用方法に関する共通認識を持つことが急務である。引き続き本事業を通じて、府全域における文化芸術振興の意義について理解促進を図り、行政間の連携をさらに強化することを期待する。